

## 「すみだ水族館に行こう！(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

すみだ水族館は、東京都内の「スカイツリーそらまち」の5階にある。水族館としては規模が小さい。子どもたちは水族館に行く聞いて、「イルカのショーとか見れますか(見られますか)?」「海中展望塔ありますか?」などとしきりに聞いてくる。もちろんあるわけがない。そもそも墨田区は海に接していない。しかし小さな水族館なりに、飼育している動物は特化されていて、非常に楽しい。



その一つが、ペンギンの大プールである。ビルの5階で床が抜けないか心配になるほど、満々と水を湛えている。その中をペンギンが楽しそうに泳いでいる。



すみだ水族館にいるのは「マゼランペンギン」という種類で、南極のように氷のある地域ではなく、南アメリカ近海や陸上に生活する、比較的小型のペンギン

である。繁殖期以外は、ほとんど外洋(海上)で生活しているという。従って泳ぎは非常に得意だ。



ペンギンは「空を飛ぶ」という、鳥類の持っていた基本的な機能を捨てた種族である。そのかわりに、水の中を泳ぐのは非常に得意で、泳ぐというよりも「水の中を飛ぶ」といったほうが正しい形容だと思う。

すみだ水族館の場合、水面の上からだけでなく、ペンギンが泳ぐ姿を「水面下」からも観察できるところが大変面白い。ペンギンや魚の視線で、水中での行動を観察できるのは、価値が高い展示方法だと思う。



ペンギンはもともと人懐っこい動物ではないが、すみだ水族館のマゼランは、実にサービス精神満点である。フラッシュをたかなければ、カメラの使用も自由なのも嬉しい。ガラスに向かって構えると、必ず何羽か寄ってきて、中にはこんなふうに、しばらくポーズをとってくれるペンギンもいる。あとで聞いたら、子どもたちも「すぐそばまで来てくれて、かわいかったよ」と、嬉しそうに話してくれた。